

特殊金属エクセル

長野・上田に新工場開設

特殊鋼やステンレスの冷間圧延加工などを手掛ける、特殊金属エクセル（本社：東京都豊島区、谷口毅CEO）は金属抵抗材料の増産と加工拠点分散によるBCP対策を目的に、長野営業所（長野県上田市）内に新工場を開設した。今月から試験稼働を始め、3月に本格的な稼働を開始する計画。金属加工を2030年までに現状比2倍へ引き上げることを目指す。

金属抵抗材料を増産

長野営業所は、小型圧延機とスリッター、物流機能を持つ拠点。金属加工は埼玉事業所（埼玉県ときがわ町）で対応していた。新工場「長野ファクトリー」は金属抵抗材料の生産に特化した拠点。主要設備は金属加工機、検査機、脱脂機、エアカーテンと空調設備、セキュリティ設備なども有する。敷地面積は1362平方メートル、建築面積が476平方メートル、延べ



長野県上田市に開設した新工場の外観

床面積450平方メートル。従業員は5人体制で、女性用更衣室とトイレを設けるなど、働きやすい環境も整備した。昨年11月に竣工式を開き、操業に向けた準備を開始。従業員5人のうち新規採用者が4人のため、人材教育を進めながら並行して設備の試験運転に着手している。顧客の材料評価を経て、本格的な稼働に乗り出す計画だ。生産計画は25年に現

状比1.5倍、27年に1.7倍とする。水谷徳次郎社長兼CEOは「他社がまねできない製品と安心をお客さまに提供できるよう、埼玉・長野新工場の2拠点で量産化を進めていきたい」とする。

新ロゴと新カラー制定 埼玉事業所の内外装刷新

特殊金属エクセルは新たにロゴやコーポレートカラーを制定し、ブランディング戦略を強化する。今月から新ロゴの使用を開始し、併せて埼玉事業所の内外装もリニューアルした。



新しいロゴと色を基調とした埼玉事業所

同社のロゴは前身の特殊金属工業時代から使用していたものや現社名に変更後のものも「改めて見直す必要があった」（水谷社長兼CEO）。同社の「多様な変化に対応し、さまざまな付加価値を生み出すこと」に加え、10年近い歴史とニッチトップ戦略のアピールを目的に刷新した。

新しいロゴと色を基調とした埼玉事業所。刷新した技術や柔軟な発想、複合的な組み合わせ、変化や進化を表現。同社の強みである、環境変化の荒波をきき波に変えるほどの組織間連携力を表した「TOKKINとパルス信号の波形の組み合わせ」と、シンパルな仕様の2タイプを用意した。コーポレートカラーは、誠実さをイメージ

したロイヤルブルーと、ぶれない会社をイメージした黒色とした。

ロゴ刷新と同時にホームページや名刺などもリニューアルしたほか、埼玉工場（埼玉県ときがわ町）では内外装のリニューアルを実施。内装は地場産業の林業を意識して木材をふんだんに用いた。外装は新コーポレートカラーを基調とし、圧延工場に「01」切断・スリット工場は「03」、長野工場は「06」など各建

屋に番号を割り振り、全拠点でブランディング戦略を徹底する。